

# 現在の社会を認識する

人文組織工学の社会論は、変化を見だし、変化を機会として見だすために構築する。

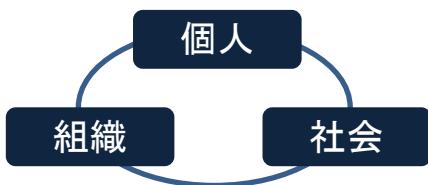
社会の認識は、仕事をしている者にとっては不可欠である。社会を理解できずして、如何なる成果もあげられない。人も組織も社会で活動し、社会で成果をあげる。組織内であがった成果が、同等以上に社会であがらなければ、仕事をしているとは言えない。社内での成果は、成果とは言えず、単なる結果である。もしかしたら、社会にとっての浪費であるかもしれないのだ。

まず、社会を認識し、社会の変化をキャッチし、仕事の機会にして成果をあげる。そのために、社会を視る。

社会学と言われる範疇に入り込む予定はない。関わったとしても少し割り込むぐらいだろう。社会の制度を言及する時はある。制度と個人及び組織の活動に関係するとして視ていく。現象に重点をおき、社会変化を見いだそうとする。

- 「金の移動の自由」が、金融と実経済の格差を広げている。金の移動の自由から始まった。実経済と金融市場との関わりが大きな関心事になっていく。格差が大きくなりすぎると、何らかのコントロールが始まる。
- 人の移動、モノの移動、情報、知識の移動の自由が知識の活性化を激しくした。社会変化を加速させる原動力になっていると考えられる。
- NPOなどが増えている。企業の社会事業化が始まっている。企業は、企業の特異を持って、社会の問題を解決しなくてはならなくなった。知識の発達と伴って、産業構造が変化し始めている。
- 高度な知識社会になり、知識生産性が問われている。専門知識の多様化によって、雇用形態にも変化が起こっている。高齢化が、産業構造、雇用形態にも影響を与えている。

現在は変化の時である。社会の状況を見つめなければならない。



「バランスを保つ」は常に注意しなければならない。

## 人類で初めての事柄が多く起こっている



# 複数の社会形態が併存する

現在の社会のある断面を切り取ると一つの形態が現れる。

産業革命以降、1900年代から社会が発展した。特に第二次世界大戦後、産業構造が大きく変わった。インターネットが普及して情報流が世界を覆った。

いま、急激な変化のときにある。

移動・流通の自由が  
社会を刺激する

社会偶像が  
現れる

エネルギー、環境  
の問題が重大事

## 生活環境としての社会

生活様式

文化・習慣

芸術・宗教

正統性

コミュニティー

## 機能としての社会

経済社会

組織社会  
(機能社会)

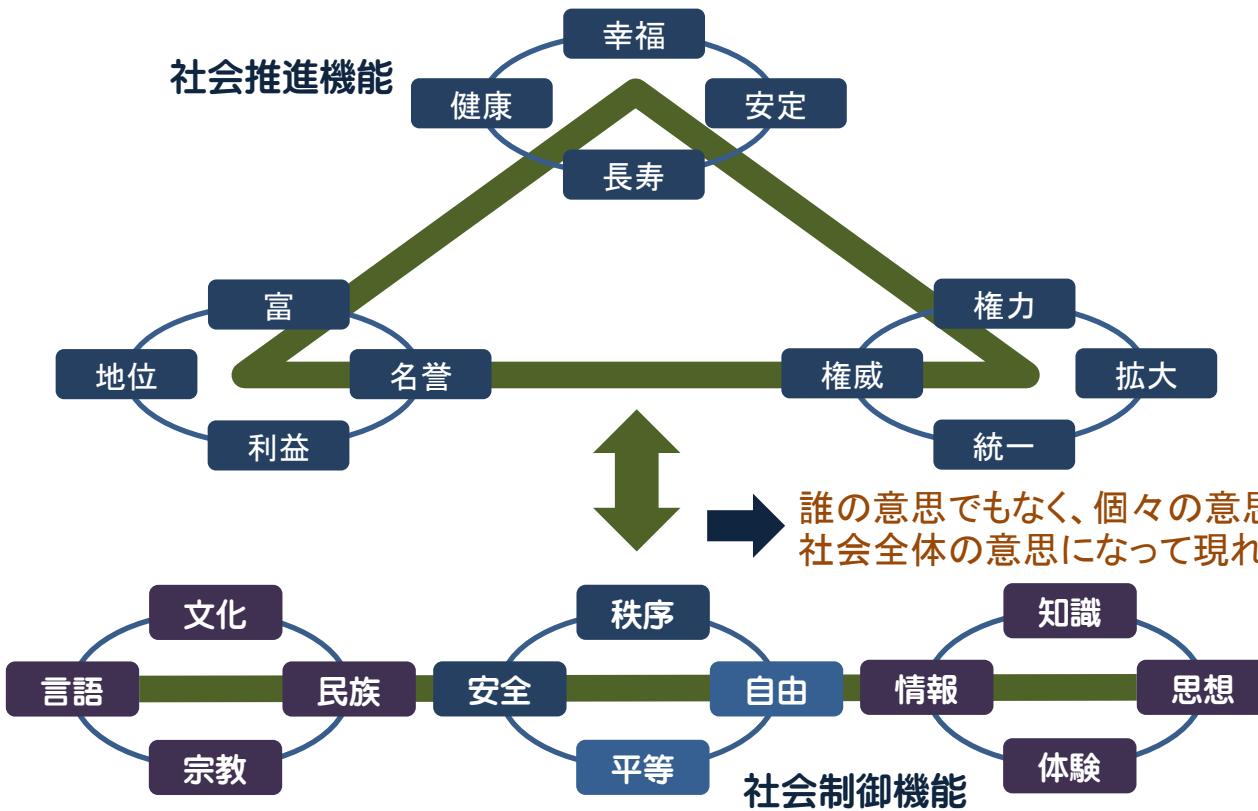
知識社会

情報社会

コミュニティー

4つ社会形態が言われている。それぞれが独立しているのではなく重なり合って機能している。経済を基盤にしているが、必ずではなく、社会事業などが現れている。社会自体が多様化している。

# 社会の意志



社会の偶像は、個人の意思とか、ある組織の意思ではない。個人、企業、何某かの団体、老若男女の生活が集まって、一つの意思を持つ。総意ではない。同類、反対、矛盾のそれぞれのベクトルが働きあって形態、現象が出来る。これを「社会の偶像」と言う。

個人の意思、組織の意思ではどうにもならない。個人の意思が、社会の意思によって動かされているかもしれない。風土とか、慣習でもない。社会の意思が、体制派と反体制派を作り、無関心も作り出す。そこに、次の社会へ進むようとする潮流が生まれる。潮流も含めて、「社会の偶像」である。

誰の意思でもなく、個々の意思の集合が社会全体の意思になって現れる。

社会偶像

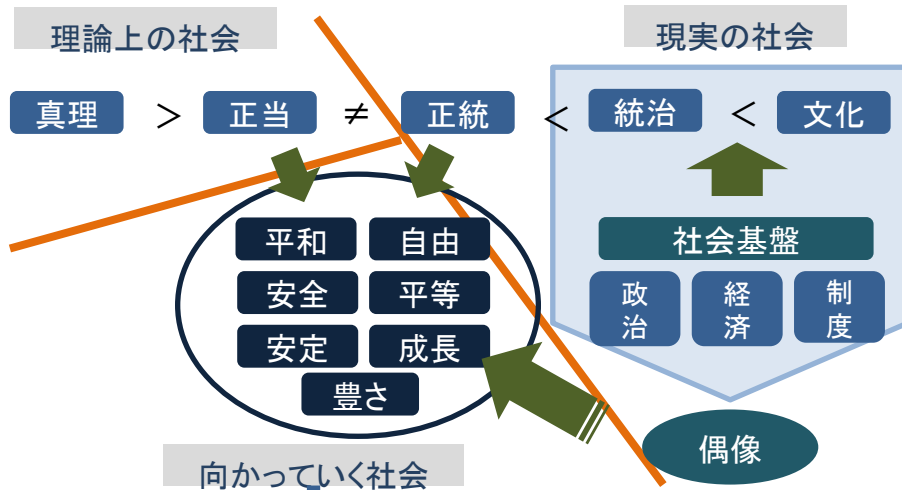
偶像の意志

●海外進出が盛んになって、人件費が安く、大きな市場を持つ国へと出ていった。適切な行動だろうが、最適かどうか、10年の歳月を待たなければ正しかは分からない。 ●円安で、輸出業は黒字に転換した。株価が回復して、設備投資が刺激された。新卒採用が軒並み昨年比べて多くなっている。その時流に乗るのは間違いではないだろうが、果たして適切なものか。10年後のリストラのために採用を増やしているかもしれない。 ●人口減少で託児所を増やそうとする。海外からの労働力を受け入れようとする。これらも間違いではないだろうが、最適な選択であるかは分からない。託児所が増えるのは良い。該当数が減ればなくなるだけだ。学校数が減っているように。

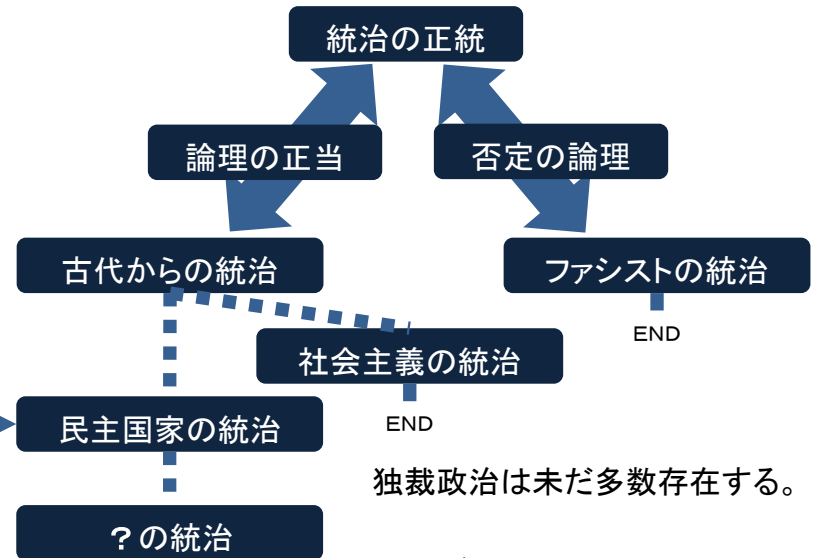
社会が動く。国内から国外へ出て行ける道を作ろうとする。海外から人が集まる道を作ろうとする。どこから始まったかは定かでない。誰が仕掛けたのでもない。その意思が社会に働いている。

# 社会が求め続ける自由と平等

自由、平等、平和は、人類が求める姿である。この姿を原則として社会制度が変化してきた。



国を統治するために、統治の「正統性」が問われてきた。人々の生活、心情を安定されるために、「正当」な論理が組み立てられた。「論理の正当性」である。「正統性」のために、現在でも「論理の正当性」が求められている。



正当と正統、社会の原則の3つを組み合わせることで検討しなければならない。

過去にいくつもの統治システムが存在した。絶対君主、封建から社会主義、民主主義があった。現在、世界の多くに見られるのは民主国家であり、資本主義国家である。だが、民主国家と名付けられる形態が最適であるとは限らない。格差社会が現れている現在では、民主国家がマシであるとされているに過ぎない。経済システム、統治システム、福祉システム等々を含めて正当な論理が求められている。

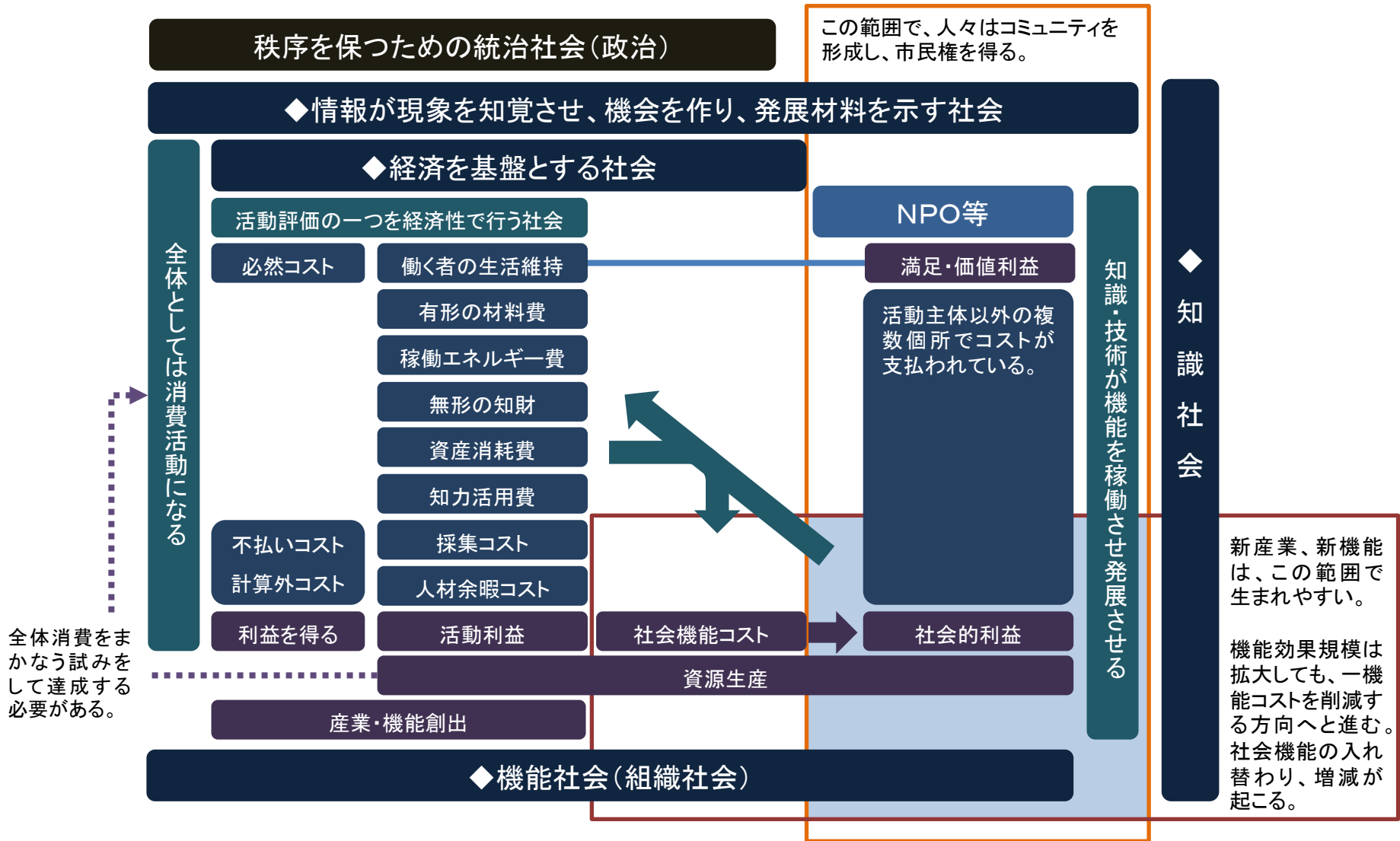
経済はグローバルへと進み、ブロック経済が成立している。未だ十分ではないが、ブロック経済が進化し始めた。組織活動は、グローバル化していて、従来の組織のまとめ方が変わってきた。現在までの経済理論、経営理論が変化し始めている。経済社会であるが、経済制約の枠組みが変化している。社会システムと経済システムの新理論が生まれてくる可能性が高い。

ファシズムはすべての体制を否定した。信条も否定した。論理をも否定した。ファシズムの論理に論理がなく、信条も論じられなかった。

すべてを否定するところに一種の「期待」が集められたのかもしれない。その根底にあったのは、不安定に対する不満だった。

# 経済&機能&知識&情報社会

経済、組織（機能）、知識、情報社会が重なり、互いに関係し合っ、社会が変化している。

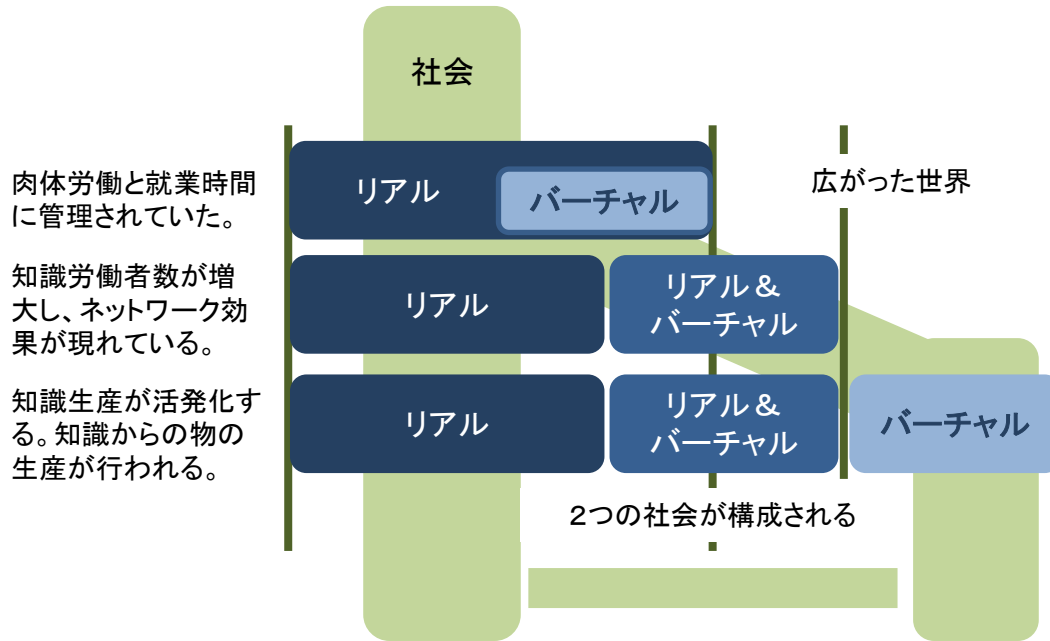


# リアルとバーチャル 2つの社会

私たちは、始めコンピュータを手に入れた。そして、インターネットを道具にした。  
産まれたのは、バーチャル世界である。

今、二つの世界を私たちは持っている。リアルとバーチャルである。

バーチャルとリアルが行き来する世界がある。



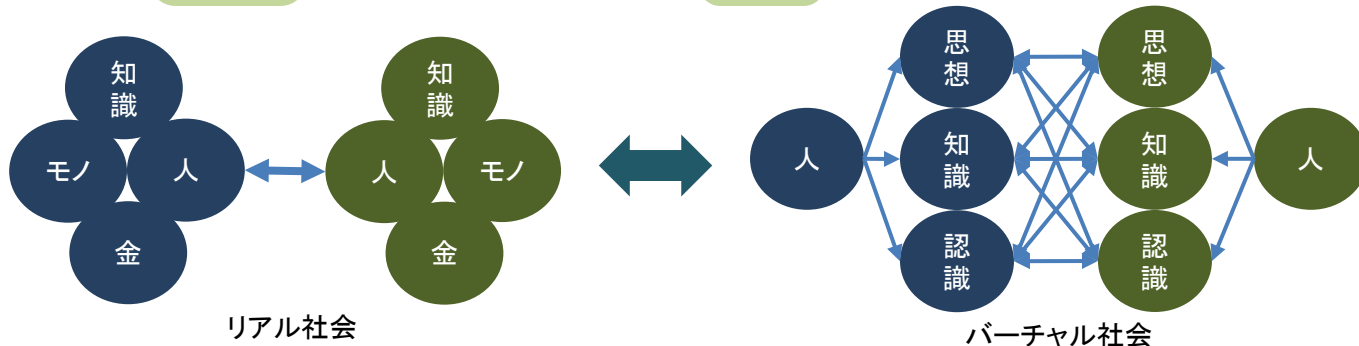
人類の歴史では、最近までリアルだけの世界だった。人と人が接して、社会を構成していた。  
1995年、インターネットが普及し、2000年には、多くの人が活用するようになった。SNSが誕生し、見知らぬ人が、互いに関わるようになった。  
新しい産業が生まれ、産業構造が変化した。

バーチャル世界では、「人が」ではなく、「知識が」であり、「情報を」になった。人と人の関係が「face to face」から離れている。

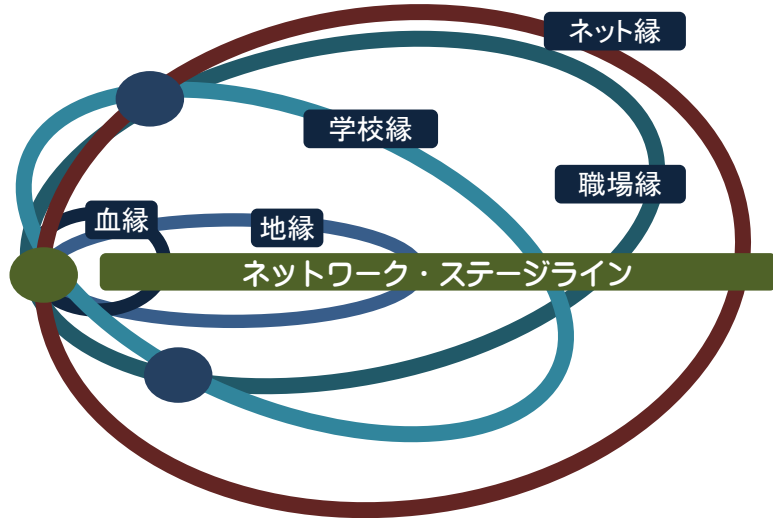
リアルだけの世界、リアルとバーチャルが行きかう世界、バーチャルだけの世界が存在する。バーチャルでコミュニティが形成されている。

バーチャル社会が新たな産業を生み出したが、新たなトラブルも発生している。正と負を十分に理解し、バランスのとれた活用までには、まだ年数がかかるだろう。だが、概念のあり様、価値観の形成の仕方は変わりつつある。

バーチャル社会が、社会進化を刺激している。



# ネットワーク形成



## 社会を形成するキッカケ、方法が広がっている。

人が集まり、コミュニティを形成する。集団が個人の様々な問題を取り扱う。健康、教育、仕事、将来について、等々を取り上げていく。

人が産まれて最初に関わるのは血縁である。しばらくは血縁の中で育つ。少し大きくなって、地縁へと広がる。住んでいる場所を中心にして、人と人の関係ができていく。アガサ・クリスティ(1890-1976)の名探偵の謎解きも、大半が地縁が解ければ事件は解決できているようだ。

成長して、地域から離れた学校へ通うようになり、学校縁が築かれる。

産業革命が起こり、人々は、家から職場へと通うようになり、職場の縁ができていく。組織が大きくなり、転勤があり、職場縁はさらに広がった。それでも職場縁が大きな広がりを見せ始めたのは第二次世界大戦が終わってからである。

インターネットができて、新たな世界、バーチャル社会が生まれ、ネット縁が誕生した。

人は、血縁、地縁、学校縁、職場縁、ネット縁と繋がりを広げていく。

そこで、複数のコミュニティに参加し、情報、知識が絶え間なく広がっている。

年代	世界人口	年間増加人口
B. C. 8000年	100万人	
B. C. 2500年	1億人	18,000
紀元元年	2億人	40,000
第一次農業革命		
1000年	3億人	100,000
1650年	5億人	307,692
第二次農業革命		
1800年	10億人	3,333,333
産業革命、交通革命		
1900年	20億人	10,000,000
生産革命		
1960年	30億人	16,666,667
第三次農業革命		
1974年	40億人	71,428,571
1987年	50億人	76,923,077
情報革命		
1999年	60億人	83,333,333
2015年	70億人	62,500,000

B.C.7C 高等教育機関誕生 パキスタン タキシラ寺院

1,088年 世界初の大学誕生 イタリア ボローニャ大学

大卒が企業に初めて採用された

さらなるキッカケが産まれるかもしれない。

人工知能が進み始めた。

人とコンピュータが会話をする。コンピュータは、相手を分析し、相手にマッチした応答をする。相手のデータはコンピュータに溜まり、コンピュータが他と接続され、コンピュータが人と人を能動的に結び付けるかもしれない。

すでに、始まっている。

社会形成のあり様に変化すれば、コミュニティ形成も変化するかもしれない。

自らの活動ステージはどの縁を足がかりに、どの縁から始めるか。自らのステージの広がりや発展を、如何なる縁の組み合わせで行うか。